

(一財) 国際ビジネスコミュニケーション協会と (公財) 日本漢字能力検定協会が実施した

論理的言語運用能力に関する共同研究について

一般財団法人 国際ビジネスコミュニケーション協会（以下、IIBC）と公益財団法人 日本漢字能力検定協会（以下、漢検協会）は「論理的言語運用能力に関する共同研究」を実施し、その内容と結果を本資料にとりまとめる。本研究から、社会人の英語（学習言語）と日本語（母語）の言語運用能力に一定の関連性が示唆される結果が示された。

1. IIBC×漢検協会 共同研究の背景と目的

日本語（母語）と英語（学習言語）では、それぞれの言語を使用する際に何か共通する、素地となるような能力があるのか。相手に伝わる論理的な構成で文章を作成したり、話したりすることができる人は、語彙や文法といった言語の知識を備えているだけでなく、言語を適切に用いる言語の運用能力が高いのではないかと。言語の運用能力について学生を対象とした研究は複数あるが、IIBC と漢検協会は社会人の日本語（母語）と英語（学習言語）の相互の関係性に着目し、両協会の試験を活用して「論理的言語運用能力についての共同研究」を実施した。本研究を通じて、日本語を母語とする社会人の英語学習者を対象に、英語と母語それぞれの運用能力のあいだにどのような関係性がみられるのかを明らかにすることを目指した。

2. 調査方法

2.1 対象

2024年4月1日から2025年4月30日の間に TOEIC® Listening & Reading 公開テスト（以下、TOEIC L&R）を受験、かつその前後1年以内に TOEIC® Speaking & Writing 公開テスト（以下、TOEIC S&W）を受験した社会人に対して参加依頼をメール配信（約3,000件）。対象は本研究への参加を希望され、最後までご参加いただいた138名。

2.2 概要

対象者に、日本語（母語）の論理的文章力のアセスメントツールである「論理的文章力トレーニング Assessment アドバンス（以下、論トレ Assessment¹）」を受験いただいた。当日（2025年9月6日）は、オンライン（Zoom）で接続した状態で漢検協会から試験概要説明（30分）を実施した後に、論トレ Assessment を受験（90分）。論トレ Assessment 受験前、および受験後に今回の研究に関するアンケートを実施。

¹ 論トレ Assessment には、「アドバンス」と、「ベーシック」の2レベルがある。アドバンス：高度な論理的文章力を測定する。文章読解・作成検定（文章検）2級レベル。ベーシック：基礎的な論理的文章力を測定する。文章検3級レベル。
文章検：<https://www.kanken.or.jp/bunshouken/>

◆本研究で使用するテストおよびツールの基本情報

	TOEIC L&R	TOEIC S&W	論トレ Assessment
測定内容	英語によるコミュニケーション能力 日常からビジネスまで		ビジネスシーンで必要とされる 論理的文章力
構成	Listening: 約45分間 Reading: 75分間	Speaking: 約20分間 Writing: 約60分間	90分 レポートの構成／要約文作成 ／伝達文・通信文作成／論説 文作成
形式	マークシート方式	パソコン使用	パソコン使用
結果	Listening: 5～495 Reading: 5～495 Total: 10～990	Speaking: 0～200 Writing: 0～200	総合スコア: 0～200 ・レポートの構成: 0～30 ・要約文作成: 0～40 ・伝達文・通信文作成: 0～50 ・論説文作成: 0～80

TOEIC Program : https://www.iibc-global.org/toEIC/toEIC_program.html

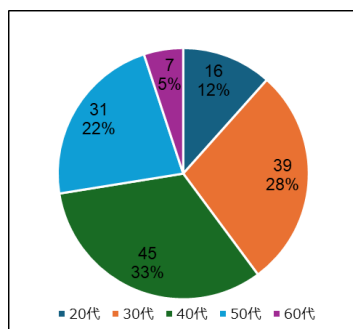
論トレ Assessment : <https://www.kanken.or.jp/bunshouken/textbook/rontore.html>

3. 調査結果

3.1 対象者情報

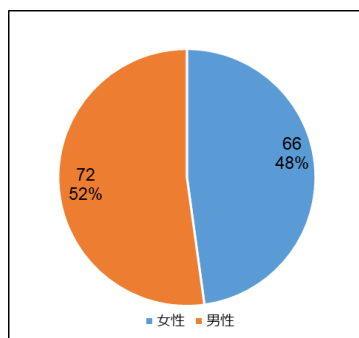
本調査の対象者 138 名の属性を以下に示す。

◆年齢



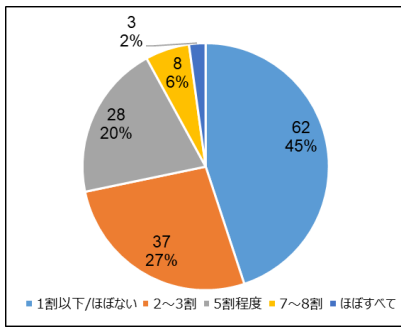
年齢層	人数	%
20代	16	11.6%
30代	39	28.3%
40代	45	32.6%
50代	31	22.5%
60代	7	5.1%
計	138	100.0%

◆性別



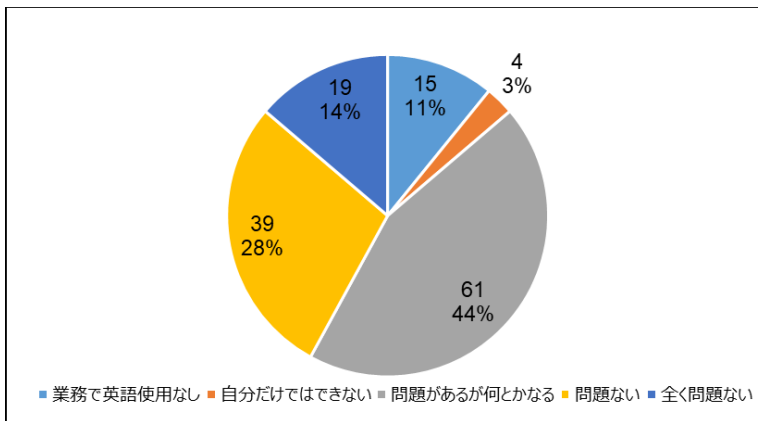
性別	人数	%
女性	66	47.8%
男性	72	52.2%
計	138	100.0%

◆業務における英語使用頻度



英語使用頻度	人数	%
1割以下/ほぼない	62	44.9%
2~3割	37	26.8%
5割程度	28	20.3%
7~8割	8	5.8%
ほぼすべて	3	2.2%
計	138	100.0%

◆英語使用業務の対応状況



英語業務対応度	人数	%
業務で英語使用なし	15	10.9%
自分だけではできない	4	2.9%
問題があるが何とかなる	61	44.2%
問題ない	39	28.3%
全く問題ない	19	13.8%
計	138	100.0%

年齢層は「40代」が最も多く、次に、「30代」が多かった。業務における英語使用頻度については、「1割以下／ほぼない」が5割弱であり、次に「2～3割」が3割弱。普段の業務において一部英語も使用するものの日本語を主に使用している人が多く、英語を使用する業務の対応状況については、「問題があるが何とかなる」が約4割存在しており、次に多かったのは、「問題ない」で3割弱であった。

3.2 スコア分析結果

◆スコアの基本統計量

基本統計量	TOEIC Program					論トレ Assessment				
	Listening	Reading	L&R Total	Speaking	Writing	Unit.1 レポートの 構成	Unit.2 要約文 作成	Unit.3 伝達文・ 通信文作成	Unit.4 論説文 作成	総合 スコア
人数	138	138	138	138	138	138	138	138	138	138
平均値	444.2	413.5	857.7	142.5	158.3	27.8	31.9	40.3	52.1	152.2
中央値	455.0	425.0	877.5	140.0	160.0	30.0	34.0	40.0	55.0	156.0
標準偏差	50.9	59.2	103.5	20.7	21.0	4.1	6.0	4.8	12.9	18.3
最小値	250	240	510	90	90	8	0	25	5	75
最大値	495	495	990	190	200	30	40	50	75	186

◆スコアの分布：パーセンタイルランク別スコア

パーセンタイル	TOEIC Program				
	Listening	Reading	L&R Total	Speaking	Writing
スコアレンジ	5-495	5-495	10-990	0-200	0-200
最小値	250	240	510	90	90
25%th	425	380	810	130	150
50%th	455	425	877.5	140	160
75%th	485	460	940	160	170
最大値	495	495	990	190	200

パーセンタイル	論トレ Assessment				
	Unit.1 レポートの 構成	Unit.2 要約文 作成	Unit.3 伝達文・ 通信文作成	Unit.4 論説文 作成	総合 スコア
スコアレンジ	0-30	0-40	0-50	0-80	0-200
最小値	8	0	25	5	75
25%th	28.25	30.25	37	41.25	140
50%th	30	34	40	55	156
75%th	30	37	44	60	165.25
最大値	30	40	50	75	186

TOEIC Program の平均スコアは、L&R Total 857.7 点、Speaking 142.5 点、Writing 158.3 点であった。2024 年度に公開テストを受験した社会人の平均スコア、L&R Total 644 点、Speaking 133.6 点、Writing 148.5 点²と比較すると、本調査対象者のスコアは全体的に高い。またスコアの分布状況については、パーセンタイルランク³別の L&R Total スコアにおいて 25%th が 810 点、50%th が 877.5 点、75%th が 940 点であることから、高いスコア層に対象者の偏りがあることがわかる。

論トレ Assessment のスコアについても、今回の対象者の総合スコアの平均が 152.2 点であり、日本語（母語）の論理的文章力についても比較的高いレベルの集団と言える。またパーセンタイルランク別でも、TOEIC Program と同様に高いスコア層に対象者の偏りがあることが確認された。

² TOEIC® Program DATA & ANALYSIS 2025 : <https://www.iibc-global.org/iibc/press/2025/p284.html>

³ データを値の小さい順に並べたとき、データの順位を百分率で表したもの

◆TOEIC Program 技能別スコアと論トレ Assessment ユニット別スコア・総合スコアとの相関係数（ピアソンの積率相関係数）

		TOEIC Program					論トレ Assessment				
		Listening	Reading	L&R Total	Speaking	Writing	Unit.1 レポートの 構成	Unit.2 要約文 作成	Unit.3 伝達文・ 通信文作成	Unit.4 論説文 作成	総合 スコア
TOEIC Program	Listening	1.00									
	Reading	0.77	1.00								
	L&R Total	0.93	0.95	1.00							
	Speaking	0.66	0.64	0.69	1.00						
	Writing	0.64	0.64	0.68	0.62	1.00					
論トレ Assessment	レポートの 構成	0.02	-0.03	-0.003	-0.12	-0.01	1.00				
	要約文作成	0.33	0.21	0.28	0.23	0.25	0.07	1.00			
	伝達文・ 通信文作成	0.09	0.14	0.12	-0.01	0.15	0.28	0.14	1.00		
	論説文作成	0.11	0.25	0.20	0.17	0.21	0.14	0.17	0.23	1.00	
	総合スコア	0.21	0.28	0.27	0.17	0.27	0.42	0.50	0.53	0.85	1.00

◆TOEIC Program 技能別スコアに対応した CEFR レベル別人数

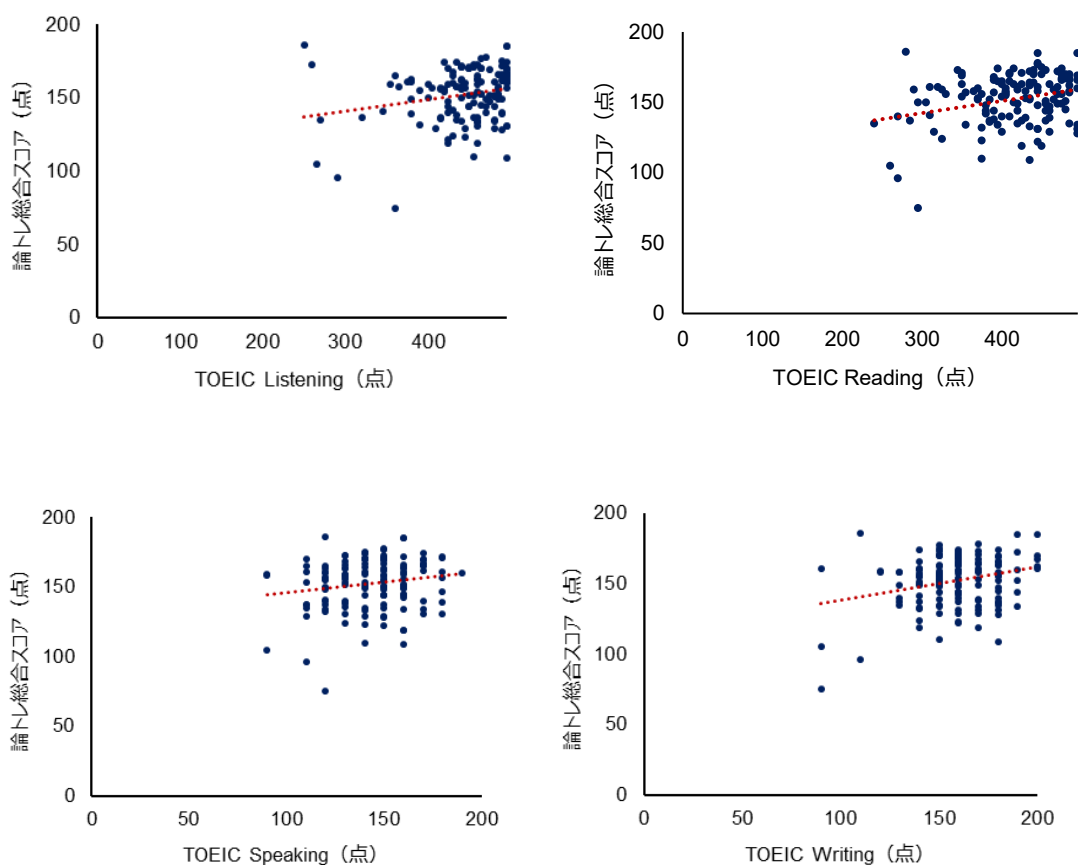
CEFR レベル	Listening		Reading		Speaking		Writing	
	スコアレンジ	人数(%)	スコアレンジ	人数(%)	スコアレンジ	人数(%)	スコアレンジ	人数(%)
C1	490-	27 (19.6%)	455-	40 (29.0%)	180-	8 (5.8%)	180-	31 (22.5%)
B2	400-485	93 (67.4%)	385-450	63 (45.7%)	160-170	32 (23.2%)	150-170	77 (55.8%)
B1	275-395	14 (10.1%)	275-380	31 (22.5%)	120-150	86 (62.3%)	120-140	25 (18.1%)
A2	110-270	4 (2.9%)	115-270	4 (2.9%)	90-110	12 (8.7%)	70-110	5 (3.6%)
		138 (100.0%)		138 (100.0%)		138 (100.0%)		138 (100.0%)

※各スキル A1 レベルに該当者なし

◆TOEIC Reading と Writing スコアに対応した CEFR レベル別の論トレ Assessment 平均スコア

CEFR レベル	TOEIC Reading				TOEIC Writing			
	人数	Unit.2 要約文 作成	Unit.4 論説文 作成	総合 スコア	人数	Unit.2 要約文 作成	Unit.4 論説文 作成	総合 スコア
C1	40	33.1	53.9	155.7	31	32.6	53.3	154.6
B2	63	31.8	53.6	154.1	77	32.5	53.2	154.1
B1	31	32.3	48.5	148.0	25	31.1	49.5	148.8
A2	4	18.8	36.3	119.0	5	23.0	39.0	124.6

◆TOEIC Program 技能別スコアと論トレ Assessment 総合スコアの散布図



TOEIC Program 技能別スコアと論トレ Assessment ユニット別・総合スコアとの相関係数より、TOEIC Program の Reading スコアと Writing スコアに関して、論トレ Assessment の総合スコアと弱い相関関係の傾向がうかがえる。より詳細をみると TOEIC Reading と論トレ Assessment Unit 4、TOEIC Writing と論トレ Assessment Unit 2 に弱い相関関係の傾向がみられる。さらに TOEIC Reading と Writing を CEFR⁴に沿ったレベル段階で見ると、CEFR B1 レベルと B2 レベルの境で、TOEIC Reading では論トレ Assessment の Unit 4 と総合スコアについて、TOEIC Writing では論トレ Assessment の Unit 2 および Unit 4 のスコアと総合スコアの平均において差がみられる。

TOEIC Program 技能別スコアと論トレ Assessment 総合スコアの散布図からは、前述の通り、今回の対象者は TOEIC Program・論トレ Assessment とともに高いスコア層に偏っている。点線で示した線分は TOEIC Program の技能別スコアと論トレ Assessment スコアの関係を表しているが⁵、どの散布図の線分も右肩上がりの傾向であることがわかる。

⁴ ヨーロッパ言語共通参照枠： <https://www.coe.int/en/web/common-european-framework-reference-languages/level-descriptions>

⁵ 単回帰分析により得られる 2 つの変数の関係を表した線（本資料の散布図では線分で表現）

3.3 アンケート分析結果

対象者に対し、論トレ Assessment 受験前、および受験後にアンケートを実施した。アンケートでは、上記 3.1 にある英語使用等についての基本情報のほか、英語／日本語の文章作成時の留意点や、自由記述による「論トレ Assessment 受験時と TOEIC 受験時との違い」、「論トレ Assessment 受験時と TOEIC 受験時との共通点」について質問した。

文章作成時の留意点

◆英語／日本語（母語）の文章作成時の留意点（優先順位の高いものを2つ選択）

留意点	英語文章		日本語文章	
	人数	%	人数	%
目的理解	49	35.5%	57	41.3%
必要情報の収集整理	46	33.3%	49	35.5%
全体構成や展開の整理	59	42.8%	58	42.0%
正確性（文法、語彙、スペル、表現）	51	37.0%	0	0.0%
読み手の立場や事前知識の考慮	46	33.3%	59	42.8%
全体の推敲	20	14.5%	21	15.2%

文章作成時に留意する観点で優先順位の高いものを2つ選ぶ質問では、英語の文章の場合は、「全体構成や展開の整理」が最も多く、次が、「正確性（文法、語彙、スペル、表現）」であった。ただしその他の留意点も大きな差はなく、「全体の推敲」がやや低かった。日本語の文章の場合は、「読み手の立場や事前知識の考慮」、「全体構成や展開の整理」の順であったが、「目的理解」も大きな差ではなく、「全体の推敲」「正確性」が優先順位としては低くなった。

英語であれ母語（日本語）であれ、「全体の構成や展開の整理」は4割以上の対象者が留意すべき点として挙げており、その他「目的理解」「読み手の立場や事前知識の考慮」も同様に上位に選ばれていた。「正確性」は英語では高いが、日本語では0%である。これは学習言語である英語と母語である日本語では一律に比較はできないことも留意が必要となる。

論トレ Assessment 受験時と TOEIC 受験時との共通点

日本語と英語とで問題の解き方や問題を解くにあたって問われている能力に共通点を感じた人は70名（51%）

問題や設問を正しく読解することや要点を理解することの必要性といった読み取りについて、解答のプロセス、論理構成についてのコメントが多数みられた。（以下要約）

- ・解答すべき内容を考えてからロジックを組み立てていくというプロセスは言語が変わっても共通していると感じる
- ・論説文作成で、適切に論理構成を考えるという点は、英語でも日本語でも同じである
- ・論理構成に注意して論説文を作成する点は類似している
- ・問題文をよく読み理解すること、設問のポイントを理解することは共通している

その他解答後の見直しや推敲が必要な点を共通点として挙げているものもあった。

論トレ Assessment 受験時と TOEIC 受験時との違い

日本語と英語とで表現について違いを感じた人数は 55 名（40%）

敬語の使い方や言い回し、細かいニュアンスなどの表現に関することに言及しているものが多くみられた。（以下要約）

- ・自分が日本語ネイティブであるが故か、細かいニュアンスの差に英語よりも気を遣った
- ・英語では知っている単語や表現で書いたり話したりしなければならないが、日本語の場合はより表現の正しさ、ニュアンスの細かい伝わり具合に注意した
- ・英語は自分の知りうる限りでの表現しか使えない
母語であることにより、使える語彙や表現の選択肢の幅が広いことに関するコメントがみられた。

今回の対象者では、51%が論トレ Assessment 受験時と TOEIC 受験時との共通点として、問題内容をしっかりと理解すること、論理構成を考えることが必要と回答しており、また解答する際にどのように言語を用いるのかの考え方は日本語（母語）と英語（学習言語）で共通していると感じている。文章作成時に優先する留意点の回答とも合わせて鑑みると、学習言語と母語の間には、何らかの共通する論理的な思考や言語運用能力が存在していることが推察される。ただし、今回の対象者の多くは英語力が十分にあると認められる層であったが、より幅広い英語スコア層に同様の調査を行った場合には、今回取得したコメントとは異なるコメントが出てくる可能性もあり、留意が必要である。

違いについても対象者の 40%が述べている。具体的には、英語の知識的な制限（使える表現の限りがあること）、日本語であればより細かいニュアンスが気になることを挙げている。これらは言語を使う上での言語の知識量とも関連すると推察される。

4. 考察

本研究は社会人を対象とし、その多くは TOEIC L&R および S&W のスコアが非常に高く（L&R 全体平均約 858 点、Speaking 143 点、Writing 158 点）、英語力が十分にあると認められる層であり、かつ論トレ Assessment においても全体平均約 152 点と高いスコアを示した。対象者のスコアを分析したところ TOEIC Reading スコアと Writing スコアにおいて、論トレ Assessment の総合スコアとの弱い相関関係が示唆された。より幅広い英語スコア層のデータが集められれば、より相関関係が明確になる可能性があると考えられる。

また、TOEIC Reading、Writing の各 CEFR レベルに該当する対象者の論トレ Assessment の結果を分析すると、特に Unit 2、Unit 4 および総スコアにおいて B2 から C1 よりも B1 から B2 レベルの間に平均点の開きが大きくみられる。英語（学習言語）の場合には CEFR B2 レベルがビジネスコミュニケーションの壁と言われている⁶が、日本語（母語）においても同様の壁があるのかなど、より多くの参加者を集められればさらに幅広い検証が可能となると考えられる。

論トレ Assessment はビジネスシーンにおける日本語（母語）での論理的な文章力を測定し、TOEIC Program は英語（学習言語）でのコミュニケーション能力を測定している。測定する対象言語の違いだけでなく、それぞれが測定しようとする能力（言語の知識や運用能力）に応じた仕様となっていることにも留意の必要がある。にもかかわらず、アンケート調査において 51%と過半数の対象者が、「正確な読解」や「要点把握」、「構成整理」、「論理の構築」、等が

⁶ 内藤永、寺内一（監修）『ビジネスコミュニケーションのための英語力』（2024）

TOEICと論トレ Assessment の両者に共通して求められる点であると記述した。今回の対象者の多くは論トレ Assessment に取り組んだ際に、英語（学習言語）を使用する際に活用している論理的な文章構成や思考の方法を、日本語（母語）での言語運用においても活用していた可能性がある。すなわち、言語を使用する際には母語や学習言語の区別なく共通して活用している能力、思考の方法がある可能性が示唆された。

この結果から、日本語（母語）・英語（学習言語）いずれの言語運用能力の向上においても、言語知識だけでなく、共通して活用する能力や思考方法の育成も重要な要素となりえる可能性が考えられる。

本研究の結果を契機に、言語における知識や能力の関係性だけでなく、日本語（母語）と英語（学習言語）の学習経験や学習方法、学習の相乗効果など、言語間のより幅広い調査が期待される。さらに、言語の垣根を越えた、心理学など他の専門分野とも連携した学際的研究につながることを期待するところである。

以上

発行日：2026年6月

発行：一般財団法人 国際ビジネスコミュニケーション協会 マーケティング部 調査研究課
(The Institute for International Business Communication)

<https://www.iibc-global.org/index.html>

公益財団法人 日本漢字能力検定協会 コンテンツ開発部 コンテンツ開発課

<https://www.kanken.or.jp/>

<https://www.kanken.or.jp/company/>

IIBC あなたが世界をつなぐ
あなたと世界をつなぐ
一般財団法人 国際ビジネスコミュニケーション協会
The Institute for International Business Communication

漢検 公益財団法人
日本漢字能力検定協会

ETS, PROPELL, TOEIC and TOEIC BRIDGE are registered trademarks of ETS, Princeton, New Jersey, USA, and used in Japan under license. The Eight-Point logo is a trademark of ETS. Portions are copyrighted by ETS and used with permission.